

- 三菱ふそうトラック・バス、「ファイター」「エアロエース」「エアロスター」「エアロメディ」・UDトラックスOEM「スペースランナーA」のエアコンプレッサーに不具合があるとしてリコール  
10年5月28日～15年2月16日に生産し  
中型トラックと大・中型バスにおいて、エアコンプレッサのシートガスケット(エアコンプレッサ内の冷却水通路とエア通路の気密性を保つもの)の強度が不足している為、ピストンの往復運動による圧力振動で当該ガスケットに亀裂が発生するものがある。その為、冷却水がエア通路に侵入し、エア圧送時に配管を伝わり、エアドライヤ(圧縮空気中の水分や油分を取り除くもの)から排出され、冷却水が減少することで警告灯が点灯し、そのままの状態で使用を続けると、エンジンの出力が制限される。又、エア圧縮時の熱により冷却水が乾燥し、結晶化して生成された固形物が吸排気バルブに付着することで、吸入または圧送されるエアが減少。エア圧が低下することで警報ブザーが鳴るとともに警告灯が点灯し、そのままの状態で使用を続けると、十分なエア圧が確保できなくなりブレーキ機能に影響を及ぼし、路上故障に至る恐れがある。
- 三菱ふそうトラック・バス、「エアロエース」等計2車種・UDトラックスOEM2車種のパワーステアリングオイルポンプに不具合があるとしてリコール  
10年8月30日～15年2月27日に生産した計2342台  
大型観光バスにおいて、パワーステアリングオイルポンプの吐出量のバラツキにより、オイルの温度がリターンホースの耐熱温度を超えるものがある。その為、そのままの状態で使用を続けると、リターンホースがパワーステアリングオイルタンクから外れてオイルが漏れ、操舵力が増大する恐れ
- 三菱自動車、「デリカ」等計5車種のETACS ECU及びブロワモータに不具合があるとしてリコール 09年1月12日～10年12月1日に生産した7万1053台  
また、交換修理用部品として09年1月4日～10年9月21日に出荷されたETACS ECU978個及び、09年4月1日～11年3月31日に出荷されたブロワモーター1576個についても組付車両は特定できないがリコール対象となる。  
前照灯や窓ふき器などを制御するETACS ECU内部の電子部品の製造が不適切な為、電子部品の抵抗値が増大することがある。その為、ETACS ECU内部の電圧が不安定になり、最悪の場合、ETACS ECUの機能が停止して、前照灯が点灯中に消灯したり窓ふき器が作動不良となる恐れがある。又、ブロワモータについては、製造が不適切な為、モータ内部のシャフトと軸受の芯がずれた状態で組み付けられたものがあり、シャフトと軸受が異常摩耗することがある。その為、そのままの状態で使用を続けると、シャフトと軸受が固着し、最悪の場合、ブロワモータが作動停止して、デフロスタが機能せず安全な視野を確保できない恐れがある。
- スズキ「エブリィ」「キャリィ」・日産OEM「NV100クリッパー」・マツダOEM「スクラム」の変速機に不具合があるとしてリコール  
14年8月18日～15年2月27日に生産した4376台  
機械式自動変速機において、変速機単体の作動検査時に使用する検査用オイルの抜き取り作業が不適切な為、変速機内部にオイルが残留しているものがある。その為、車両組立時に規定量のオイルを入れると、規定より油量が多くなり、そのままの状態では高速走行をすると油温が上昇し、変速機の内部部品が溶損したり、熱の影響で変速機周辺のハーネスが溶損して、最悪の場合、走行不能やエンジンが再始動できない恐れがある。
- 三菱自動車、「ミニキャブ-MiEV」「i-MiEV」のモータコントロールユニット(MCU)に不具合があるとしてリコール 11年8月2日～12年7月12日に生産した1489台  
また、交換修理用部品として11年11月11日～12年5月7日に出荷したMCU13個についても、組付車両は特定できないがリコール対象となる。  
駆動用モータを制御するMCUにおいて、内部の絶縁基板の製造工程管理が不適切な為、当該絶縁基板の絶縁抵抗が低下するものがある。その為、回路電圧が不安定となり、警告灯が点灯するとともに、フェールセーフ制御により駆動用モータの出力が制限され、最悪の場合、再起動不可及び駆動用バッテリーへの充電不可となる恐れがある。
- スズキ、「ワゴンR」「アルト」「Kei」「ツイン」「スイフト」・マツダOEM「キャロル」「ラピュタ」「AZ-ワゴン」・シボレー「クルーズ」のイグニッションスイッチに不具合があるとしてリコール  
98年8月24日～09年8月24日に生産し  
イグニッションスイッチにおいて、接点部に使用するグリスが不適切な為、可動接点が固定接点から離れる際のアーク放電の熱によりグリスが炭化することがある。その為、そのまま使用を続けると、グリスの絶縁性の低下と可動接点の摩耗による金属粉の堆積により接点間が導通し、発熱することでグリスが発煙し、最悪の場合、火災に至る恐れがある。